

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習
—学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第1学年国語科学習指導案

単元名 ○○小へようこそ

～新1年生に「学校のすてき」を紹介する文章を書こう～

学習材名（開発単元のため、学習材なし）

第1会場 品川区立大井第一小学校

日時：令和8年2月20日(金) 5校時

児童：品川区立大井第一小学校 第1学年松組32名

担任：品川区立大井第一小学校 主任教諭 近藤 範子

指導者：目黒区立中根小学校 主任教諭 桐野 大地

第2会場 台東区立松葉小学校

日時：令和8年2月20日(金) 5校時

児童：台東区立松葉小学校 第1学年1組 18名

担任：台東区立松葉小学校 主任教諭 鈴木 亜弥子

指導者：江戸川区立鹿骨東小学校 主任教諭 山口 瞳

1 単元の目標

○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。

〔知識及び技能〕(1)ア

◎経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)ア

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)	①進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にし、課題に沿って紹介する文章を書こうとする。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・第1会場

児童は、どんな学習にも意欲的に取り組み、入学当初より文字の書き方や記号の使い方、助詞や特別な音の表記の仕方など、文字表記に関する力を身に付けてきた。これまでの学習では、書いた文章を友達と互いに読み合い、楽しむ姿が見られている。一方で、書くことが決められなかったり表記に自信がなかったりして一人で取り組むことが難しい児童も数名いる。書く活動と一緒に題材を考えたり、個別支援で表記の仕方を教えたりして、友達と一緒に取り組めるよう手だてをとっている。

2学期からは週末の宿題として日記を書き、友達と読み合うことで、読み合う楽しさも味わっている。

・第2会場

児童は、学習に意欲的で、どの学習にも前向きに取り組むことのできる児童が多い。入学してからの約1年間で、文字（平仮名・カタカナ・漢字）や記号の表記、助詞や言葉・文の書き表し方を学習し、一つ一つの学びを真面目に積み重ねてきている。

書いた文章が完成すると、友達と読み合い、互いの文章を楽しみ、よさを伝え合う児童も見られる。その一方で、意欲はあるものの、なかなか書くことが決められなかったり、書字に苦手意識を抱えていたりするなど、一人ではすぐには進められない児童も数名いる。

生活科の学習など他教科でも、書くことを学習活動に取り入れてきてはいるが、言葉の羅列になりやすく、読む相手を意識した伝わりやすい文章を書く機会は不足している。生活科や他教科では指導が難しい内容を国語科の学習として、「書くことのねらい」を焦点化して指導することで、書くことの一層伸ばしていけると考えた。

そこで、本単元が「書きたい」と思う題材と出会い、書く過程を丁寧に積み重ねながら、児童が最後まで楽しく書き進められる学習になることを期待している。

(2) 学習材について（学習材観）

本単元では、児童の課題解決や学びを促す柱として、以下の2点に注目した。

1：自分の興味・関心に応じて広く取材し、意欲的に書くこと。

2：書いたものを読み合い、活用することで、「また書きたいな」という意欲をもつこと。

これらに基づき、児童の学びに適した学習材について検討した。主な取材対象は、学校にある場所・人・物・遊び・給食・授業・行事などである。教師の作成したモデル文、学習シート等を使い、学びを進めていく。

学校生活を楽しむ児童にとって、校内でお気に入りの場所や人・活動がそれぞれ存在している。その中から伝えたいことを決めて書く活動は、書く楽しさを味わう経験を積むことに適していると考えた。今回の学習では、取材対象を学校の中にある様々なものを対象にしてよいこととした。それにより、自分の興味・関心に応じて意欲的に取材ができると考えた。また、学習のゴールに新1年生に向けて「学校のすてき」を紹介することを設定した。入学を楽しみに待つ一方、不安に感じているであろう年長児に向けて、自分たちが気に入っていることについて文章を書き、紹介する活動は、相手意識をもち、「書いてよかった」という思いにつながりやすいのではないかと考えた。

学習を進める際、どう文章に表したらよいかを具体的に考えさせる主な手だてとして、教師の作成したモデル文やワークシートを活用する。モデル文は、簡単な「始め・中・終わり」の構成が視覚的に分かりやすい形式で作成する。始めと終わりは、定型の文から選び、自分の文章に当てはめることで、書くことへの負担感を減らすようにした。本來說明的文章における「中」の部分には、書き手の思いや考えは入れず、「終わり」で述べるものとすることが多いが、1年生という発達段階を踏まえ、「中」には対象に対する思いや考えが入ることも自然と捉え、特に意図的に分けさせることはしない。

ワークシートは、学びを自覚し、振り返るための〈学習計画・振り返り表〉、児童が取材したことを操作しやすい形式の〈取材カード（短冊）〉を活用する。これらの学習材を適宜使用することにより、書くことへの苦手意識を軽減し、楽しさや有用感を味わわせることができると考えた。

(3) 単元について（単元観）

今回の単元では、○次に生活科「学校大すき」の学習を設定し、そこからつなげて本単元を構成した。生活科で見つけた「学校のすてき」について、来年度入学してくる1年生に紹介するために、分かりやすい文章を書くにはどうすればよいかを国語で学ぶこととした。国語の指導を通して、紹介する文章の書き方が明確に分かり、

文章に表せることで、「分かりやすく書けて嬉しいな」、「また書いてみたいな」という意欲につなげていきたい。

本単元は、言葉を用いて自分の伝えたいことを表す学習の一端であると捉えている。学習に意欲的に取り組めるよう、自分のお気に入りの場所や人・活動について取材をする際には、タブレット端末での写真撮影、簡単な文・言葉、絵などを取り入れながら、じっくりと向き合えるようにする。思い入れのあるものを文章に表すことで、主体的に取り組めるようになると思った。また、取材したことを、事柄ごとに1文程度の短冊に記し、複数集める。構成の段階では、伝える相手を改めて意識し、複数の短冊の中から伝えたいことが明確に表れている3、4枚程度の短冊を取り上げる。決める際には、読み手に知ってほしいおすすめポイントを考え、見たこと、聞いたこと、様子、思ったことや感じたことなど、「書いて伝えたいな」と思う事柄に絞っていく。

さらに、児童の生活とつながりがあり、書くことの良さを実感できる単元となるよう、相手意識、目的意識を次の通りに設定した。

相手：新1年生

目的：来年度入学してくる1年生に向けて、「学校のすてき」を紹介する。

もうすぐ2年生に進級する1年生のこの時期は、下の学年が入ってくることに意識を向けやすい。そこで、入学してくる新1年生に向けて、生活科で学習したことを生かして学校を紹介する文章を書くことにした。自分の書いた文章により、新1年生が学校生活について知ったり、楽しみにしたりしてもらえることで、「書いてよかったな」「次は、～な文章を書きたいな」といった、次の書くことへの意欲にもつながっていくような展開を目指している。

4 研究主題に迫るために

(1)「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる。

○低学年分科会の捉える「言葉による見方・考え方を働かせている姿」について

低学年分科会で捉える「言葉による見方・考え方を働かせている」とは、学習した文字や表記のきまりなどを活用しながら、対象に対して興味をもち、思いを基にそれを他者に伝えたい、分かるように教えたいという気持ちをもって楽しみながら書いている姿と考える。言葉を使うと自分の思いや考えが表せること、またそれを他者に伝えることができるということに気付き、実際に文を書けた達成感から「書くのが楽しい」「また書きたい」という次への意欲につながっていく。以上のことは、児童が書くことを学ぼうとする姿勢を形成するのに重要な基盤となる。

また、書く活動においては、低学年から、常に相手意識をもつ必要があると考える。内容についても、対象についてただとりとめもなく書くのではなく、取材の観点を意識して書くことで、相手に伝わりやすい文章を書くこととする意識を育てることも目指したい。そのために、取材した事柄を見て、伝えたいことに必要な事柄かどうかを確かめる活動を行うことで、自覚化、意識化することができると考える。

○本単元の方策・工夫

読み手を来年度入学してくる新1年生、目的を「学校のすてき」を紹介するとし、1年生の学習内容に即しながら読み手意識、目的意識を明確にもてるようにした。新1年生が、学校に来るのが楽しみになるように、自分が伝えたい学校の場所や人、活動などについて書く。

また、生活科の学習と関連付けることで、他教科や学校行事などでも汎用でき、文章を書く必然性が生まれるように単元を組んだ。また、書いた文章を実際に来年度入学してくる1年生に読んでもらい、反応をもらうことで、書いた実感を味わわせる。このような取組により、目的を達成するためには書く力を高める必要があると、児童自身が実感できるようになるのではないかと考えた。国語科以外の学習から書く必然性を感じるようにすることで、児童に書くことを学習する明確な目的意識をもたせることができると考える。

(2)児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

○「身に付けたい力を意識する」「自ら学びを進める」姿について

低学年分科会が捉える「身に付けたい力を意識する」姿とは、児童がその学習を通してどんな文章を書けるようになりたいか、そのためにどういうことができるようになればよいかを自覚する姿であると考え。また、「自ら学びを進める」姿とは、他者に伝えたい、分かるように教えたいという気持ちをもって、対象に対する情報（内容・思いなど）を整理し、文字や表記のきまりなどに気を付けながら、書いている姿である。

○〈学習計画・振り返り表〉の活用

本単元では、学習導入時に学習のめあてを児童が自ら決める。そして、そのめあてに向かって書く活動をする中で毎時間学習計画を活用しながら振り返りを行っていく。児童が見通しをもつことで、自ら学びを進めること

ができると考える。単元の終末には、導入で立てためあてが達成できたかについて振り返る。単元の学習を通して、「身に付けたい力」が付いたのかを児童が自覚できることを期待している。

(3)学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。

○自らの考えをもつための活動

児童は、生活科の学習から自分の経験を想起して校内の様々なものを書く対象として集めてくる。その中で自分の学校には様々な場所や人、活動が存在し、それらがとても魅力あるものであることに気付く。与えられた対象ではなく、自分が見付けてきた対象を一つ選んで書くことは、児童が伝えたいと思うことを、より具体的に考え、自らの考えとしてもつことにつながると考えた。

○「対話」を生かした、多様な考えを取り入れる活動

まず一人で書く。ここで、書きたいことを自分の思うように書くことができる。その後、友達と対話しながら取材カードの内容について考えることで、伝えたいことが伝わっているか、伝えたいことがよりよく伝わる内容が他にはないかということに気付くことができるというよさがある。伝えたいことに必要な事柄を確かめる場面や成果物の共有場面で対話を設定する。場面に応じて、対話の目的や観点、人数などを変えて行う。

対話をすると、一人で書いた文章がよりよくなったり、認められることで自信がもてたりするよさがあると気付かせたい。

(4)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

○伝わった実感と書くことの楽しさから、日常の書く意欲へ広げる

児童は、本単元で、対象について読み手に伝わるような文章を書く経験をしたことで、書いて伝わった、書くがたくさんの人に伝えることができるという実感をもつようになる。多くの人に伝えたいと思ったとき、「書いて伝える」という手段も選べるようになると思う。

低学年から、書くという活動の楽しさを味わわせる必要がある。相手に伝わった実感、達成感をもつことは書くことの楽しさやよさを自覚し、今後の学習の様々な場面で「書きたい」という意欲をもつことにつながっていく。この単元で身に付けた書くことの手を、児童自身が自覚することによって、今後、他教科や実生活の中で人に何かを伝えるとなったときに、「書いて伝えてみよう」と思えるようにしていきたい。

5 単元計画（全5時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第〇次		<ul style="list-style-type: none"> 生活科で学校の好きなものを探る活動を行う。 新1年生にも紹介する計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の中で好きな場所やもの、人について取材し、写真を撮ったり、絵に描いたりすることを伝える。 	
第一次 題材の設定と計画	1	<p>学習の計画を立てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新1年生に「学校のすてき」を紹介するという単元のゴールを決め、活動の見通しをもつ。 2 文例を読み、どんなことに気を付けて書けばよいか考える。 3 何について書くか決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な学習計画を立て、活動の見通しがもてるようにする。 ○教師が作成した文例を読み、完成作品のイメージをもたせる。 ○紹介したいことを出し合い、何について書くか一つ決められるようにする。 	<p>〔知識・技能①〕 ワークシート・観察 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いているかの確認。</p>
第二次 情報の収集・内容の検討	2・3 本時	<ol style="list-style-type: none"> 1 課外で調べたことを短冊に書き表す方法を知る。 2 取材したことを短冊に一つずつ書き表す。 3 ペアで、書いた短冊を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○項目ごとに短冊を書かせるようにする。感じたこと・考えたことは必ず入るように黄色の短冊に書かせる。 ○短冊に事柄ごとに1文で書かせる。 ○再取材したい児童は再度取材対象を見に行き、確かめるようにする。 	<p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・観察 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかの確認。</p>
		<ol style="list-style-type: none"> 1 教師が手本を示し、書きたいことに必要な事柄かどうか確かめることが大切だということを自覚する。 2 短冊の中から、特に伝えたい事柄が書かれている短冊を3、4枚程度決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作成した文例は、第1時で提示した見本となるものと、短冊を羅列したものを用意して比較し、書きたいことを明確にするために気を付けたいことを考えさせる。 	

記述	4	<p>1 取り上げた短冊を基に記述する。</p> <p>2 書いた作品を読み返す。</p>	<p>○誤字脱字や句点の間違いはないか確かめながら記述させるようにする。</p> <p>○書き終わったら、読み返し、正しく書けているか確認させる。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>紹介文</u> 言葉がもつよさを感じるとともに、進んで紹介文を書いているかの確認。</p>
第三次共有	5	<p>1 できた作品を読み合う。</p> <p>2 身に付いた力を振り返る。</p>	<p>○互いに読み合い、よいところを伝え合う。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>紹介文・観察</u> 言葉がもつよさを感じるとともに、学習課題に沿って、思いや考えを伝えようとしているかの確認。</p>

6 本時の学習（3/5）

(1) 本時のねらい

取材した事柄の中から書きたいことに立ち返り、書く内容を明確にすることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時の学習感想を取り上げ、価値付けや課題点を確認し、本時に解決することへの見通しをもたせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> つたえたいことがつたわるようなたんざくを見つけて、 ぶんしょうにかくことをきめよう。 </div>		
2 どの短冊にするか、教師の見本を基に考える。	○相手意識をもち伝えたい事柄を確かめることを伝えるとともに、多くの事柄からどのように必要な短冊を決めるか示す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <u>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</u> ・相手意識をもち、複数の短冊から伝えたいことを明確にしている。 </div>
3 短冊の中から書きたいことに必要な短冊を決める。	○①〈見たこと・聞いたこと・様子〉、②〈思ったこと・感じたこと〉から必ず二つの要素を盛り込むよう声を掛ける。	
	○書くことが決まった児童には、短冊をワークシートにシールで貼るよう声を掛ける。	
4 対話の仕方をモデルで示す。	○動画で話型を示し、ペアで共有する際の話し方を具体的にイメージできるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <u>〔思考・判断・表現①〕</u> <u>ワークシート・観察</u> 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかの確認。 </div>
5 ペアで互いに伝えたいことが明確になっているか、質問し合う。	○互いに質問し合うことで、特に伝えたいことが明確になっているか確認できるようにする。	
6 本時の学習を振り返る。	○できたことやよかったことを振り返らせ、本時での学びを自覚できるようにする。	

「まつば小へようこそ」しん一ねん生に、学校のすてきをしようかいしよう①
 がくしゅうけいかく・ふりかえりひょう

なまえ

「まつば小へようこそ」しん一ねん生に、学校のすてきをしようかいしよう②
 ◎「はじめ中・おわり」にかくことをかんがえよう。

なまえ

△学びかたのコツ	○かきかたのコツ	□文しょうをかくためのコツ
△1 わかりやすいぶんしょうが、かける。 △2 つたえたいことをえらんで、かける。 △3 ぶんしょうをよみあい、すてきなど、ころがつたえられる。	○1 みたことしたこと・ようすなどがかける。 ○2、(てん)や。(まる)がかける。 ○3 こじばや字をまちがわずにかける。	□1 つたえたいテーマが見つけられる。 □2 きめたことについて、メモできる。 □3 つたえたいことをえらぶことができる。 □4 「はじめ・中・おわり」のくみたてがわかる。

見とおし	あつめる	くみたてる	かく	ふりかえる	日にち
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	5
学しゅうのけいかくをたてる。 つたえたいこと	かきたいことをきめて、じょうほうをあつめる。	「はじめ・中・おわり」をかんがえる。 かきたいことがつたわるか、たしかめる。	メモにそって、文しょうをかく。	ともだちとせくひんをよみあい、 学しゅうをおして学んだことをふりかえる。	
きょうのめあて					ふりかえり () とはか () () () () ()

●これからがんばりたいこと
 ●「がくしゅうけいかく・ふりかえりひょう」をよみ、学校のすてきをしようかいしよう①のめあてをたてる。

「まつば小へようこそ」しん一ねん生に、学校のすてきをしようかいしよう②
 ◎「はじめ中・おわり」にかくことをかんがえよう。

はじめ	つたえたいこと	かきかた
□まつば小には、 □ほく・わたしは、まつば小の □まつば小は、 □まつば小では、 ()	() () () ()	かきかた

中	すてきのせつめい	おわり
		かきかた

…ので、たのしみしててください。
 …ので、あんしんしてください。
 …してみてください。
 …しましょう。

〈児童が取材時に使用する短冊〉

児童が書く内容を意識できるように、
短冊上部に観点を示している。

ひと

- ・どんなひとか
- ・なにをしているか
- ・どこにいるか
- ・なにをしてくれたか

★かんじたこと、おもったこと

ばしよ

- ・いつつかうか
- ・どんなことをするか
- ・なににつかうか
- ・なにができるか
- ・なにがあるか

★かんじたこと、おもったこと

もの(いきもの)

- ・いろ
- ・つかうばしよ
- ・かたち・大きさ
- ・つかいかた
- ・いいところ

★かんじたこと、おもったこと

きょうじ

- ・なにをしたか
- ・いつしたか
- ・どこへいったか
- ・なにができるか

★かんじたこと、おもったこと

じかん・かつどう

- ・すること
- ・ようす
- ・つかうもの

★かんじたこと、おもったこと

きゆうしよく

- ・メニュー
- ・あじ
- ・におい
- ・はいつているもの
- ・みんなにんきのもの

★かんじたこと、おもったこと